

公共情報コモンズ EDXL フォーマット定義書

Version 2.1
第1版

更新日	Version	版	主な追加・変更内容
2010/8/1	1.0	-	初版発行
2011/10/14	1.1	-	別紙参照
2011/11/8	1.1.1	-	別紙参照
2012/11/9	1.2	-	別紙参照
2013/4/1	1.2.1	-	別紙参照
2013/12/20	1.3	1	別紙参照
2014/1/24	1.3	2	別紙参照
2014/6/20	1.3	3	別紙参照
2014/11/10	1.4	1	別紙参照
2015/6/1	1.4	2	別紙参照
2016/6/13	1.5	1	別紙参照
2017/10/11	1.5	2	別紙参照
2019/10/10	2.0	1	別紙参照
2020/3/13	2.0	2	別紙参照
2021/5/10	2.1	1	別紙参照

	名称と内容		備考
	はじめに		
	表記ルール	このドキュメントにおける表記上のルール	
	コモンズEDXL要素		
	コモンズEDXLデータモデル		

はじめに

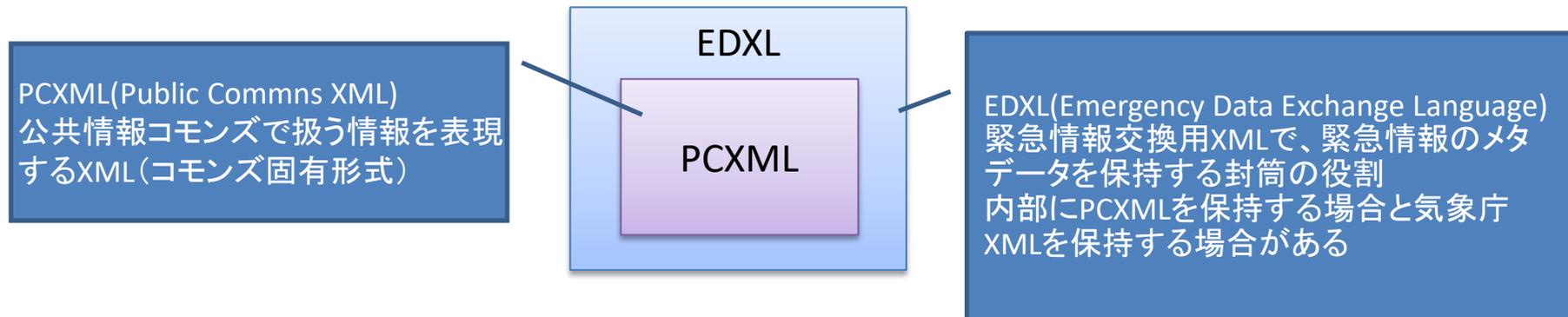
1. はじめに

本文書は「Lアラート」で使用する、EDXLの定義を記述するものです。
公共情報コモンズEDXLフォーマット(以下「コモンズEDXL」といいます)は、標準化団体OASISによって定義されたEmergency Data Exchange Language Distribution Element (以下「OASIS版EDXL」といいます)スキーマを拡張したものです。

- OASIS版EDXLスキーマからの変更点
 - ・ 公共情報コモンズで使用する要素を追加
- 本文書で記述する内容について
 - ・ 公共情報コモンズでの、OASIS版EDXL定義要素の意味
 - ・ 公共情報コモンズでの、OASIS版EDXL定義要素の使用有無
 - ・ コモンズEDXLでの拡張要素の意味

2. コモンズEDXLの概要

- コモンズEDXLは、他のXML文書のエンベロープとして機能します。



- コモンズEDXLが包含するXML文書フォーマット
 - ・ 公共情報コモンズXML(PCXML)フォーマット
 - ・ 気象庁防災情報XMLフォーマット
- コモンズEDXLの各要素は、包含する文書のメタ情報を保持します。この情報をメタデータと呼びます。
- コモンズEDXLのメタデータは、メッセージルーティングなどに使用します。

3. 著作権等

- 本文書は、総務省「平成21年度地域情報プラットフォーム委託事業」の推進事業成果報告書に基づき作成されたものです。なお、当該報告書の著作権は総務省に帰属します。
- 一般財団法人マルチメディア振興センターは、本文書に関して、総務省から改訂、頒布等の許諾を得ています。
- 本文書を改変することは認められません。
- 本文書に関する問い合わせは一般財団法人マルチメディア振興センターにて受け付けます。
- 『Lアラート』は総務省及び一般財団法人マルチメディア振興センターの登録商標です。(登録第5802710号)
- 『公共情報commons』は一般財団法人マルチメディア振興センターの登録商標です。(登録第5348969号)

4. XML作成にあたっての制限事項について

- “pcx_cns_i”に前方一致する名前空間プレフィックスは予約済みであり、XMLインスタンス内で宣言することはできません。この条件に一致する名前空間プレフィックスを使用したXMLをコモンズノードシステムに対して発信することはできませんのでご注意ください。
- 改行コードはLFとします。

表記ルール

接頭辞 URI = 名前空間 関連する基底型 :								
項番	親要素	子要素	基底型	出現回数	意味	コモンズノードシステム 利用	とりうる値	解説
1	A1							
2		A11	type.A11	1				
3			*				"c11a"	
4			*				"c11b"	
5		B11	A3	?				
6		B12	xs:string	+				
7		*						
8	A2							
9		B21	A1	*				
10		B11	xs:string	1				
11	A3							
12		B12	xs:string	1			code.D1	
13	(element)	B31	A2	1				
14	(end)							

接頭辞	名前空間(Namespace)を識別するための接頭辞を記述する。
名前空間	名前空間(Namespace)名を記述する。
関連する基底型	このドキュメント内に仕様が記述されていない型を基底型として参照している場合、関連する基底型として記述する。
項番	要素の位置を一意に表せるように番号を記述する。
親要素	親要素として、型の名前を記述する。このドキュメント内では一意な名前とする。列挙型の場合、複数の要素から参照される場合のみ記述する。
子要素	親要素に含まれる項目の名前を記述する。同じ親要素内で一意な名前とする。例外的に任意の子要素も許容する場合は、子要素にアスタリスク("*")だけを記述した行を子要素の最後に置く(例: 項番7)。この場合に許容する名前空間を、「とりうる値」欄に記述することができる。 また、規定型がこの要素のみが使用する列挙型となる場合、とりうる値を続けて記述する。(項番2, 3, 4)

<p>基底型</p>	<p>子要素の基底型を記述する。子要素の基底型としては、XML Schemaで定義されているビルトインデータ型、このドキュメント内で定義される親要素の名前、XML Schema単純型拡張(後述)、または関連する基底型で定義される親要素の名前を記述する(例: 項番5、6、9)。親要素の基底型は通常、記述しないが、子要素の基底型は必ず記述する。 XMLSchema単純型拡張を以下に示す。 - pcx_eb:nullablefloat...xs:float型を拡張しており、xs:floatの記述範囲のほかに空文字の記述を許容するもの - pcx_eb:nullableinteger...xs:integer型を拡張しており、xs:integerの記述範囲のほかに空文字の記述を許容するもの</p>
<p>出現回数</p>	<p>親要素の出現回数は記述しない。具体的な出現回数は親要素を参照する子要素中に定義される。 子要素の出現回数は以下のように記述する。 必ず1回出現 1 0回か1回出現 ? 1回～無限大に出現 + 0回～無限大に出現 * N回～M回出現 N, M</p>
<p>意味</p>	<p>親要素、子要素の意味を簡潔に記述する。</p>
<p>コモンズノードシステム利用</p>	<p>子要素がコモンズノードシステムのどのような機能で使用されるかを記述する。以下のいずれかの値となる。 ・重複排除、送達保証 ... メッセージの識別情報として使用される。 ・メッセージルーティング ... CBR(内容に依存して配信先を切り分ける)機能で使用される。 ・コモンズビューワ ... コモンズビューワが使用する。 (* この列に記述がない要素についても、配信時の変換処理で使用される。</p>
<p>とりうる値</p>	<p>子要素がとりうる値を簡潔に記述する。列挙値となる場合は、具体的な文字列をダブルクォートで挟んで記述する。正規表現を利用する場合は"RE:"を最初につけて記述し、任意の文字列を許容する場合は"*"を記述する。また、コード表による参照の場合、"code." で始まるコード管理表の親要素名を記述する(例: 項番3、4、12)。</p>
<p>解説</p>	<p>親要素、子要素を説明する文章を記述する。子要素がアスタリスク("*")だけの行は、例外的に任意の子要素も許容する理由を解説に記述し、他の欄は記述しない。</p>

注1) 親要素、子要素は排他的に用いる。

注2) 親要素として型を記述する場合には要素名として”type.”を最初につける。

注3) 別の名前空間に属する要素を作成する際は、要素名は呼び出される側の名前空間に属するようにする。そのために、次の2点の記述法を利用する。

・子要素欄に別の名前空間接頭辞が付いていた場合、基底型に記載の要素名に対して参照することとする。この場合の子要素と基底型は同じ接頭辞であるものとする。

・親要素名を”(element)”とした場合、子要素名を基底型に記載の型として、グローバルに宣言する(例: 項番13)。

注4) 表の最終行であることを明示するために、親要素名として”(end)”を置く。

注5) 例に示した親要素、子要素の名称やとりうる値には特に意味がない。

要素の背景色について

必須要素(例:項番5)	コモンズノードシステム上、必須の要素。メッセージ収集時点でチェックが行われ、存在していない場合、および形式が正しくない場合はエラーとなる(エラーチェックの起動の有無は、システムのオプションにより制御可能)。
必須要素(例:項番13) (親要素は省略可)	親要素は省略可能であるが、親要素を指定した場合は必須となる要素。
条件付必須要素	特定の要素の子要素として出現する場合や、別の要素が特定の値を保持する場合のみ必須となる要素。必須となる条件については各要素の「意味」「解説」列で記述する。
推奨要素 (例:項番10)	コモンズノードシステムとして設定が推奨される要素。メッセージ情報の有用性の観点から、できる限り設定されていることが望ましい(存在しなくてもエラーとはならない)。
未使用要素	EDXLスキーマで定義されているが、コモンズノードシステムとしては使用しない要素。要素そのものを省略する。
システム設定要素	コモンズノードシステムが設定する要素。 情報発信システムは、この要素を設定してはいけない。 情報受信システムは、この要素を解析する必要はないが、この要素が存在することや存在しないことによってエラーが出ないように注意する必要がある。

コモンズEDXL要素

項番	親要素	子要素	基底型	出現回数	意味	コモンズノードシステム利用	とりうる値	解説
commons URI = http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ 関連する基底型: edxIde: urn:oasis:names:tc:emergency:EDXL:DE:1.0 (OASIS EDXL)、comet-edxl: http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ext/comet-edxl/、 commons_dr:http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ext/documentRevocation/								
1	(element)	EDXLDistribution	edxIde:EDXLDistributionType	1	ドキュメントルート			
2	edxIde:EDXLDistributionType							
3		distributionID	xs:string	1	メッセージを一意に識別する文字列(ID)。 元文書のIDではなく、EDXLエンベロープを付与した時点で一意となるようにUUID(Universally Unique Identifier: RFC4122)を割り振ることを推奨する。 この文字列は、コモンズノードシステムにおいて、メッセージを一意に表す文字として使用される。コモンズノードシステムは、この値がすでにデータベースに登録されているかどうかを元に、重複受信を排除する機能を実現する。	・重複排除、送達保証 ・コモンズビューワ		本情報の識別情報を示し、本要素が同じものについては、同一の情報であることを示す。 例) 7e573043-fc3c-4a6b-bdb8-a9608233b0af 詳細については、解説資料「メッセージと文書」を参照のこと。
4		senderID	xs:string	1	発信システムID。情報発信システムを一意に表す文字列。コモンズに直接発信するシステムのFQDN(Fully Qualified Domain Name)形式の文字列を設定する。ただし、DNS登録されている必要はない。 例えばAシステムからBシステムに入って、Bシステムからコモンズに配信する事例では、Bシステムの名称を表わすFQDNを設定する。 コモンズからSOAP配信される情報のsenderIDは、発信元のsenderIDが指定される。 なお、コモンズエディタから発信する場合のsenderIDは、「editor.ドメイン名」としているため連携システムから発信する際のsenderIDでは、「editor」という表現は非推奨としている。	・メッセージルーティング		組織のドメインを末尾に含むFQDN形式の文字列を設定することで他システムとの重複を回避できる。 例: 組織のドメインがexample.lg.jpの場合 "sender.commonssystem.example.lg.jp" TVCMLでSenderIdに該当するのは、SentFrom/Party/@FormalName。 用途: 特定のシステムからコモンズに送出したメッセージをフィルタリングする場合などに使用する。 発信システムサーバが二重化されている場合、各サーバで同じSenderIdを使用する。たとえば、バックアップ側のサーバから発信する場合のsenderIDは、平時の駆動系側のサーバから発信する場合のsenderIDと同じ値となる。
5		dateTimeSent	xs:dateTime	1	発信日時。情報発信システムがこの情報を送信した日時を表す。 この情報が複数のシステムを経由して送信される場合、コモンズノードシステムに対して最後に送信処理を行ったシステムの処理時刻を設定する。	・コモンズビューワ		タイムゾーンには日本標準時(+09:00)を指定しなければならない。 例: 2016-05-01T10:00:00+09:00
6		distributionStatus	edxIde:statusValues	1	運用種別。 元文書の運用種別を表す文字列ベースの列挙値。	・コモンズビューワ		標準EDXLより列挙値を抜粋。
7		distributionType	edxIde:typeValues	1	更新種別。 情報の更新内容を表す文字列ベースの列挙値。	・コモンズビューワ		詳細については、解説資料「文書の新規作成・更新とドキュメントIDの関係」を参照のこと。
8		combinedConfidentiality	xs:string	1	メッセージの機密性(confidentiality)を表す文字列。デフォルト値で固定とする。		"UNCLASSIFIED AND NOT SENSITIVE"	現バージョンでは"UNCLASSIFIED AND NOT SENSITIVE"で固定。
9		language	xs:string	?	メッセージの言語を表す文字列。現バージョンではja-JPで固定。		"ja-JP"	現バージョンでは"ja-JP"で固定
10		senderRole	edxIde:valueListType	*	情報の送信者のロールを表す。現バージョンでは使用しない。		-	使用しない
11		recipientRole	edxIde:valueListType	*	情報の受信者のロールを表す。現バージョンでは使用しない。		-	使用しない
12		keyword	edxIde:valueListType	*	このメッセージに関連した話題(topic)を表すリスト形。使用しない。		-	使用しない

項番	親要素	子要素	基底型	出現回数	意味	コモンズノードシステム利用	とりうる値	解説
commons URI = http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ 関連する基底型: edxIde: urn:oasis:names:tc:emergency:EDXL:DE:1.0 (OASIS EDXL)、comet-edxl: http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ext/comet-edxl/、 commons_dr:http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ext/documentRevocation/								
13		distributionReference	xs:string		別メッセージへの参照を表す文字列。 * 本来は、更新メッセージ受信時に更新対象メッセージのIDを設定するが、実装上設定しない。		-	使用しない
14		explicitAddress	edxIde:valueSchemeType		* 明確な受信者を表す。現バージョンでは使用しない。		-	使用しない
15		targetArea	edxIde:targetAreaType		対象地域。 情報発信者が当該の情報を伝えたい住民が居住している地域を表す。 地域の名称は、都道府県、市区町村、政令都市の区など、全国地方公共団体コード(JISX0401/0402)を保有する団体等の名称を設定する * EDXLスキーマ上は、省略可能となっているが、子要素 jisX0402がメッセージルーティングで使用されるため省略してはならない。 元文書が自治体によって作成されている場合には、targetArea/areaName要素のひとつには作成した自治体名を記述し、areaNameKana要素の値には作成した自治体名のかな表記を記述する。			子要素 jisX0402 について: jisX0402要素は必須項目であり、情報の対象地域の「市区町村及び一部事務組合等コード」番号を記述する。 この要素を複数指定する場合、当該の情報を作成した自治体(対象地域)の出現順は最後にする。
16		contentObject	edxIde:contentObjectType		情報本体および付加情報を含む複合型。 commons:contentObjectとedxIde:contentObjectをEDXLDistribution配下に混在して配置する。 *			contentObject要素は下記規則に沿って設定されなければならない * commons:contentObjectはpcxmlあるいは気象庁XMLのどちらかを保持し、必ず1個指定しなければならない * 地理情報を含む場合、edxIde:contentObjectを1個指定できる。 * 拡張されたEDXLからedxIde:contentObjectを削除すると、従来のコモンズの仕様に従ったEDXLとならなければならない
17	edxIde:statusValues		xs:NMTOKEN		運用種別を表す文字列ベースの列挙型。			この型は、PCXML要素でも使用される。
18			*				"Actual"	本番。このメッセージが、実運用の業務内で作成・発表されたことを表す。
19			*				"Exercise"	訓練。このメッセージが、実運用中の訓練業務で作成・発表されたことを表す。
20			*				"System"	システム。情報発信者が送信することはない。このメッセージが、実運用中またはテスト中に送信されたシステム情報であることを表す。
21			*				"Test"	テスト。このメッセージが、運用開始前のシステム構築時のベンダ間接続テストで作成・発表されたことを表す。
22	edxIde:typeValues		xs:NMTOKEN		更新種別を表す文字列ベースの列挙型。			この型は、PCXML要素でも使用される。
23			*				"Report"	新規。元文書が新しく作成された情報であることを表す。
24			*				"Update"	更新。元文書が改版されたことを表す。なお、更新時の情報には、差分のみではなく、改版後の文書全体が含まれていなければならない。

項番	親要素	子要素	基底型	出現回数	意味	コモンズノードシステム利用	とりうる値	解説
commons URI = http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ 関連する基底型: edxlde: urn:oasis:names:tc:emergency:EDXL:DE:1.0 (OASIS EDXL)、comet-edxl: http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ext/comet-edxl/、 commons_dr:http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ext/documentRevocation/								
25			*				"Cancel"	取消。 既に作成・発表された元文書が削除されたことを表す。 "Cancel"は発信したこと自体が誤りである誤報などの場合に用いる。 誤報等により元文書の一部が訂正された場合には、訂正後の文書全体を含む情報を distributionType=Updateで送信することが推奨される。 また、通常の更新ではなく訂正であることを注意喚起するため標題にその旨を明記することが推奨される。 詳細については、解説資料「発信情報の取消」を参照のこと。
26			*				"Error"	エラー。 エラー発生についての情報であることを表す。システムが送信し情報発信者が送信することはない。
27	edxlde:targetAreaType				地域情報を含む複合型。			
28		circle	xs:string		対象となるエリアの地理情報(円)を表す文字列。書式は"緯度(-90~90),経度(-180~180),半径(km)"となる。 * 緯度・経度には世界測地系に基づく値を10進法で設定する。	・コモンズビューワ		例)34.75695,134.841178,0
29		polygon	xs:string		対象となるエリアの地理情報(多角形)を表す文字列。書式は"緯度(-90~90),経度(-180~180)"を区切り文字スペース' 'で連結したものとなる。 * 緯度・経度には世界測地系に基づく値を10進法で設定する。			
30		country	xs:string		* ISO 3166-1定義国名コードを表す文字列。現バージョンでは使用しない。		-	使用しない
31		subdivision	xs:string		* ISO 3166-2地理(行政区画・属領)コードを表す文字列。現バージョンでは使用しない。		-	使用しない
32		locCodeUN	xs:string		* UN/LOCODEを表す文字列。現バージョンでは使用しない。		-	使用しない
33	edxlde:contentObjectType				情報本体および付加情報を含む複合型要素。			
34		contentDescription	xs:string		見出し文。 この情報の内容を簡潔に表した文章。 ? incidentDescriptionが情報の原因となった事象についての記述を指すのに対し、contentDescriptionは情報そのものに対する記述を指す。	・コモンズビューワ		例)2009年9月1日大雨被害に伴う避難指示(試験) 詳細については、解説資料「メッセージを説明する要素」を参照のこと。
35		contentKeyword	edxlde:valueListType		* 元文書についてのキーワードを表すリスト形。 親要素の contentObject が地理情報を内包する場合、必須である。		-	記述方法の詳細について、解説資料「避難情報」作成時の留意事項」を参照のこと。
36		incidentID	xs:string		? 災害のIDを表す文字列。 一つの災害に対する全市町村/インフラ関係者間で有効なIDを採番する機構が存在しないため、使用しない。		-	使用しない
37		incidentDescription	xs:string		この情報の原因となった事象についての記述を表す文字列。 ? contentDescriptionは情報そのものに対する記述を指すのに対し、incidentDescriptionが情報の原因となった事象についての記述を指す。	・コモンズビューワ		例)2009年9月1日大雨被害(試験) 詳細については、解説資料「メッセージを説明する要素」を参照のこと。
38		originatorRole	edxlde:valueListType		* 情報の作成者のロールを表す文字列。使用しない。		-	使用しない

項番	親要素	子要素	基底型	出現回数	意味	コモンズノードシステム利用	とりうる値	解説
commons URI = http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ 関連する基底型: edxIde: urn:oasis:names:tc:emergency:EDXL:DE:1.0 (OASIS EDXL)、comet-edxl: http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ext/comet-edxl/ commons_dr:http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ext/documentRevocation/								
39		consumerRole	edxIde:valueListType	*	受信媒体		-	1.2版より本要素の運用が開始された。 1.2版では、情報種別「緊急速報メール」を発信する際に本要素を使用する。 別紙「緊急速報/エリアメール配信機能開発ガイド」参照。
40		confidentiality	xs:string	?	このメッセージの守秘性を表す文字列。使用しない。		-	使用しない
41		other	xs:other	*	任意の要素。使用しない。		-	使用しない
42		nonXMLContent	edxIde:nonXMLContentType	?	非XML形式の元文書を含む複合型。この要素とxmlContentのどちらかが必須となる。		-	
43		xmlContent	edxIde:xmlContentType	?	XML形式の情報を含む複合型。この要素とnonXMLContentのどちらかが必須となる。		-	
44	valueListType							
45		valueListUrn	xs:string	1	キー		-	consumerRole要素の子要素として本要素を記述する場合の詳細について、別紙「緊急速報/エリアメール配信機能開発ガイド」を参照。contentKeyword要素の子要素として本要素を記述する場合の詳細について、解説資料「避難情報」作成時の留意事項を参照のこと。
46		value	xs:string	+	値		-	consumerRole要素の子要素として本要素を記述する場合の詳細について、別紙「緊急速報/エリアメール配信機能開発ガイド」を参照。contentKeyword要素の子要素として本要素を記述する場合の詳細について、解説資料「避難情報」作成時の留意事項を参照のこと。
47	edxIde:nonXMLContentType				非XML形式の元文書を含む複合型。コモンズノードシステムでは使用しない。		-	
48		mimeType	xs:string	1	MIMEタイプを表す文字列。		-	
49		size	xs:integer	?	ファイルサイズを表す数値。		-	
50		digest	xs:string	?	ダイジェストを表す文字列。		-	
51		uri	xs:anyURI	?	URI。		-	
52		contentData	xs:anyBase64Binary	?	Base64エンコード形式の非XMLデータ。		-	
53	edxIde:xmlContentType				XML形式の情報本体を含む複合型。		-	
54		keyXMLContent	edxIde:anyXMLType	*	embeddedXMLContent内のフラグメントを表す。フラグメント要素を包含する。使用しない。		-	使用しない。
55		embeddedXMLContent	edxIde:anyXMLType	*	情報そのものを表す。子要素として、公共情報コモンズXML (PCXML) フォーマットまたは気象庁防災情報XMLフォーマットが出現する。		-	
56	CommonsTargetAreaType				edxIde:targetAreaType を継承するコモンズ用拡張。		-	

項番	親要素	子要素	基底型	出現回数	意味	コモンズノードシステム利用	とりうる値	解説
commons URI = http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ 関連する基底型: edxlde: urn:oasis:names:tc:emergency:EDXL:DE:1.0 (OASIS EDXL)、comet-edxl: http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ext/comet-edxl/、 commons_dr:http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ext/documentRevocation/								
57		areaName	xs:string	1	地域の名称を表す。同じ親を持つjisX0402要素が存在する場合、コードに該当する名称を設定する。 この要素が、/EDXLDistribution/targetArea下に出現する場合、情報発信者が当該の情報を伝えたい住民が居住している地域の名称を表す。地域名称は、都道府県、市区町村、政令都市の区など、全国地方公共団体コード (JISX0401/0402) を保有する団体等の名称を設定する。	・コモンズビューワ		例)加古川市
58		areaNameKana	xs:string	?	地域のかな表記を表す。同じ親を持つjisX0402要素が設定されている場合、コードに該当する名称のかな表記の値を設定する。 この要素が、/EDXLDistribution/targetArea下に出現する場合、情報発信者が当該の情報を伝えたい住民が居住している地域の名称を表す。地域名称は、都道府県、市区町村、政令都市の区など、全国地方公共団体コード (JISX0401/0402) を保有する団体等の名称のかな表記を設定する。			例)かこがわし
59		jisX0402	xs:string	?	この情報が対象とする地域の「市区町村及び一部事務組合等コード」を表す。値はチェックディジットつき6桁の値となる。 EDXLDistribution/targetArea/ の子要素としての jisX0402 は、必須要素である。その他の位置に出現する場合はこの限りではない。	・メッセージルーティング ・コモンズビューワ		例)282103
60		ooAzaTyouTyouMokuCode	xs:string	?	このメッセージが対象とする地域の「大字町丁目コード」を表す。このコードは国土交通省国土計画局が提供する、位置参照情報ダウンロードサービスにおいて使用されている値とする。			
61	CommonsContentObjectType				edxl:contentObjectType を継承するコモンズ用拡張要素。			
62		xmlVersion	xs:string	?	XMLバージョン	・メッセージルーティング		例)2.0 本要素は、Version 2.0 より、追加された。 このXMLの公共情報コモンズEDXL/XMLフォーマットのバージョン番号を表す。 このXMLが公共情報コモンズXMLを内包する場合、本要素の値に名前空間バージョンを設定しなければならない。このXML が気象庁XMLを内包する場合、本要素を省略しなければならない。 値には、名前空間バージョンを設定する。名前空間バージョンの詳細については解説資料の「コモンズEDXL/PCXML仕様のバージョン設定規則」を参照のこと。
63		publishingOfficeName	xs:string	?	本情報を業務的に発表した部署の名称を示す。 スキーマ上では互換性維持のため省略可能とするが、実質上必須要素である。	・コモンズビューワ		例)災害対策局災害対策課

項番	親要素	子要素	基底型	出現回数	意味	コモンズノードシステム利用	とりうる値	解説
commons URI = http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ 関連する基底型 : edxIde: urn:oasis:names:tc:emergency:EDXL:DE:1.0 (OASIS EDXL)、comet-edxl: http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ext/comet-edxl/、 commons_dr:http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ext/documentRevocation/								
64		publishingOrganizationName	xs:string	?	本情報を業務的に発表した組織の名称を示す。 スキーマ上では互換性維持のため省略可能とするが、実質上必須要素である。	・コモンズビューワ		例)兵庫県 本要素は、Version 1.3より、追加された。Version 1.3以降の形式の発信システムは、必ず本要素を設定しなければならない。また、受信側システムでは、Version 1.2.1 以前形式の発信システムによる情報に、本要素が設定されない場合がある点に注意する必要がある。なお、XMLスキーマ上は互換性維持のため省略可能としている。
65		publishingOfficeID	xs:string	?	本情報を業務的に発表した組織のコードを表す。発表組織が自治体の場合、全国地方公共団体コード(JISX0401/0402)をチェックディジット付きの6桁で指定する。 発表組織が自治体以外の場合には省略する。	・メッセージルーティング		例) 280003
66		publishingOfficeDomainName	xs:string	?	本情報を業務的に発表した組織を一意に表す文字列である。自治体の場合は省略する。PCXML内のPublishingOffice要素以下のOrganizationDomainNameが設定されている場合は、同じ値を設定する。PCXML内のOfficeDomainNameではないので注意が必要である。	・メッセージルーティング		
67		previousDocumentRevision	xs:int	?	更新前のメッセージの版番号を表す。この情報が新規(distributionType=Report)である場合には、previousDocumentRevisionは値0を指定するか、要素ごと省略する。 更新前のメッセージの版番号が不明である場合には、要素ごと省略する。			値は、連続している必要はない(1→2→4→5となつてよい)。 さらに、previousDocumentRevisionの値を持つ情報がコモンズに発信されなくてもよい(元文書システムが1→2→4→5と更新し、1と5のみをコモンズに発信する場合に、5の場合のpreviousDocumentRevisionの値は4となる)。 上記より、本項目を使用して伝達者側システムを設計することは推奨されない。

項番	親要素	子要素	基底型	出現回数	意味	コモンズノードシステム利用	とりうる値	解説
commons URI = http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ 関連する基底型 : edxIde: urn:oasis:names:tc:emergency:EDXL:DE:1.0 (OASIS EDXL)、comet-edxl: http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ext/comet-edxl/ commons_dr:http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ext/documentRevocation/								
68		documentRevision	xs:int	?	このメッセージの版番号を表す。 この情報が新規(distributionType=Report)である場合には、documentRevisionの値は1となる。 更新された元文書の順序を識別するのに利用されるため、必須要素とする。	・コモンズビューワ		本要素は、第1.1版より、必須要素に指定された。第1.1版以降の形式の発信システムは、必ず本要素を設定しなければならない。また、受信側システムでは、第1.0版形式の発信システムによる情報に、本要素が設定されない場合がある点に注意する必要がある。なお、XMLスキーマ上は互換性維持のため省略可能としている。 詳細については、解説資料「文書の管理・運用」を参照のこと。 documentRevisionの値は、更新を行うごとに、より大きな値となっていなければならない。ただし、更新ごとの値が連続している必要はない (1→2→4→5となってよい) (元文書システムが1→2→4→5と更新し、1と5のみをコモンズに発信する場合に、元文書の5版のdocumentRevisionの値には(2ではなく)5を設定する)。
69		documentID	xs:string	?	ドキュメントID。文字数の上限は128文字である。 文書を一意に識別する文字列。文書に共通のdocumentIDと、documentRevision が符番されることで、改版を表現する。 例えば、「高齢者等避難発令 → 避難指示発令 → 避難指示解除」の順で発令・解除が発表されるとき、コモンズノードシステムに対して3件の情報の送信が行われる。ここで、distributionIDは3件の情報すべてに異なる値が符番されるのに対し、documentIDは3つの情報すべてに同じ値が符番される。これによって、3件の情報の元文書が同一であり、元文書が更新されていることを認識できる documentID は、コモンズのシステム内でユニークなIDとなる必要があるため、UUID (Universally Unique Identifier: RFC4122) の使用を推奨する。また、元文書が発信システム上一意となる ID を持っており、かつ上記改版の考え方に則している場合には、これが発信システムのFQDNを付けたものを用いてもよい。poxml の documentID と同じものである。	・コモンズビューワ		詳細については、解説資料「メッセージと文書」を参照のこと。
70		category	categoryType	1	このメッセージの情報種別を表す。	・メッセージルーティング ・コモンズビューワ		
71		urgency	xs:string	?	このメッセージの緊急度を表す文字列ベースの列挙値。以下のいずれかの値となる。	・メッセージルーティング ・コモンズビューワ		詳細については、解説資料「アラート要素のとりうる値」を参照のこと。 この要素は、ノードシステムによって付与される。情報発信システム側は、この要素を設定してはいけない。情報受信システム側は、この要素を解析する必要はないが、この要素が存在することによってエラーが出ないように注意する必要がある。
72			*				"Immediate"	直ちに
73			*				"Expected"	まもなく(1時間以内)
74			*				"Future"	近い将来
75			*				"Past"	過去

項番	親要素	子要素	基底型	出現回数	意味	コモンズノードシステム利用	とりうる値	解説
commons URI = http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edx12/ 関連する基底型 : edx1de: urn:oasis:names:tc:emergency:EDXL:DE:1.0 (OASIS EDXL)、comet-edxl: http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edx12/ext/comet-edxl/、 commons_dr:http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edx12/ext/documentRevocation/								
76			*				"Unknown"	不明/適用外
77		severity	xs:string	?	このメッセージの重大性を表す文字列ベースの列挙値。	・メッセージルーティング ・コモンズビューワ		詳細については、解説資料「アラート要素のとりうる値」を参照のこと。 この要素は、ノードシステムによって付与される。情報発信システム側は、この要素を設定してはいけない。情報受信システム側は、この要素を解析する必要はないが、この要素が存在することによってエラーが出ないように注意する必要がある。
78			*				"Extreme"	著しく高い
79			*				"MoreSevere"	より高い
80			*				"Severe"	高い
81			*				"Moderate"	中程度
82			*				"Minor"	低い
83			*				"None"	重大性なし
84			*				"Unknown"	不明/適用外
85		certainty	xs:string	?	このメッセージの確実性を表す文字列ベースの列挙値。			詳細については、解説資料「アラート要素のとりうる値」を参照のこと。 この要素は、ノードシステムによって付与される。情報発信システム側は、この要素を設定してはいけない。情報受信システム側は、この要素を解析する必要はないが、この要素が存在することによってエラーが出ないように注意する必要がある。
86			*				"Observed"	発生中・進行中
87			*				"Likely"	おそらく起こる(p>50%)
88			*				"Possible"	起こるかもしれない(p<=50%)
89			*				"Unlikely"	起こりそうにない(p<0%)
90			*				"Unknown"	不明/適用外
91		deliveryInformation	deliveryInformationType	?	配信情報を表す複合型要素。 この要素は、コモンズノードシステム側で付与される。情報発信システム側では設定してはいけない。			
92		received	receivedType	*	配信処理済みノード情報を表す複合型要素。 この要素は、コモンズノードシステム側で付与される。情報発信システム側では設定してはいけない。			
93	categoryType		xs:string		情報種別を表す列挙型。			この型は、PCXML要素でも使用される。
94			*				"AntidisasterHeadquarter"	災害対策本部設置状況
95			*				"EvacuationOrder"	避難情報
96			*				"Shelter"	避難所情報
97			*				"TemporaryStayFacilities"	一時滞在施設情報
98			*				"DamageInformation"	被害情報
99			*				"GeneralInformation"	お知らせ
100			*				"Event"	イベント情報
101			*				"CivilProtection"	国民保護情報
102			*				"UrgentMail"	緊急速報メール (別紙「緊急速報/エリアメール配信機能開発ガイド」参照。)
103			*				"SedimentDisastersWarning"	土砂災害警戒情報 (発信システム側はこの情報種別を発信してはいけない。受信システム側は "SedimentDisastersWarningFromJMA" (気象庁XML形式の土砂災害警戒情報)を受信すること。)
104			*				"WaterLevel"	河川水位情報
105			*				"RainFall"	雨量情報
106			*				"TideLevel"	潮位情報

commons

URI = http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/

関連する基底型: edxIde: urn:oasis:names:tc:emergency:EDXL:DE:1.0 (OASIS EDXL)、comet-edxl: http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ext/comet-edxl/、

commons_dr:http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ext/documentRevocation/

項番	親要素	子要素	基底型	出現回数	意味	コモンズノードシステム利用	とりうる値	解説
107			*				"FamiliariseRiver"	水位周知河川
108			*				"WeatherWarningAndAdvisory"	気象警報・注意報
109			*				"SedimentDisastersWarningFromJMA"	土砂災害警戒情報
110			*				"FloodForecastingFromJMA"	指定河川洪水予報
111			*				"TsunamiForecast"	津波警報・注意報・予報
112			*				"LocalizedHeavyRainFall"	記録的短時間大雨情報
113			*				"TornadoWarning"	竜巻注意情報
114			*				"EscalationMessage"	発信・配信結果情報
115			*				"DocumentRevocation"	文書無効化情報
116			*				"SeismicIntensityInformation"	震度速報
117			*				"EarthquakeInformation"	震源に関する情報
118			*				"EarthquakeAndSeismicIntensityInformation"	震源・震度に関する情報
119			*				"InformationOnSeismicActivity"	地震の活動状況等に関する情報
120			*				"InformationOnTheNumberOfEarthquakes"	地震回数に関する情報
121			*				"InformationOnTheRevisionOfSourceParametersOfRemarkableEarthquakes"	顕著な地震の震源要素更新のお知らせ
122			*				"TsunamiInformation"	津波情報
123			*				"TsunamiObservationsAtOffshoreGauges"	沖合の津波観測に関する情報
124			*				"WeatherEmergencyWarningsAndWarningsAndAdvisories"	気象特別警報・警報・注意報
125			*				"VolcanicForecastsAndWarnings"	噴火警報・予報
126			*				"PowerFailure"	停電発生状況
127			*				"VolcanicInformation"	噴火速報
128			*				"WeatherWarningAndAdvisoryH27"	気象警報・注意報(H27)
129	commons_dr:type:DocumentRevocation				文書無効化情報			本要素はXML Version1.4より追加された。 本要素は、誤配信文書の公開終了を情報伝達者へ要求する目的で使用され、EDXLのembeddedXMLContent要素以下に本要素が出現する。 サービス提供者以外は、本要素を発信することはできない。
130		dateTimeRevoked	xs:dateTime	1	無効日時	・メッセージルーティング		文書を無効化した日時
131		commons:documentID	xs:string	1	無効ドキュメントID			
132		description	xs:string	1	説明			無効理由などを記述する。
133	複合型要素・システム内部情報							
134	deliveryInformationType				配信プロセスを表す複合型要素。全ての要素値はノードシステム内で設定され、情報発信者側での設定はできない。			この要素は、ノードシステムによって付与される。 情報発信システム側は、この要素を設定してはいけない。 情報受信システム側は、この要素を解析する必要はないが、この要素が存在することによってエラーが出ないように注意する必要がある。
135		messageURI	xs:string	1	このメッセージのURIを表す。			
136		description	xs:string	?	このメッセージの概要を表す文字列。			
137		maximumDeliveryTimes	xs:int	1	このメッセージの最大配信試行回数を表す数値。			
138		deliveryTimes	xs:int	1	このメッセージの現在までの配信試行回数を表す数値。			
139		doErrorEscalation	xs:boolean	1	このメッセージの配信失敗時に、エラーエスカレーション処理を行なうかどうかを表すフラグ。			
140		firstDeliveryDate	xs:dateTime	?	このメッセージが初めて配信された日時を表す。			
141		lastDeliveryDate	xs:dateTime	?	このメッセージが最後に配信された日時を表す。			
142		deliveryStatus	xs:string	?	このメッセージの配信ステータスを表す文字列ベースの列挙値。			
143			*				"SUCCESSFUL"	全ての配信タスクは正常に完了している。
144			*				"ACTIVE"	1つ以上の配信タスクが処理中である。
145			*				"FAILED"	1つ以上の配信タスクに失敗した。
146		task	taskType	*	配信タスク情報を表す複合型要素。			

項番	親要素	子要素	基底型	出現回数	意味	コモンズノードシステム利用	とりうる値	解説
commons URI = http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ 関連する基底型 : edxlde: urn:oasis:names:tc:emergency:EDXL:DE:1.0 (OASIS EDXL)、 comet-edxl: http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ext/comet-edxl/、 commons_dr:http://xml.publiccommons.ne.jp/xml/edxl2/ext/documentRevocation/								
147	taskType				配信タスクを表す複合型要素。全ての要素値はノードシステム内で設定され、情報発信者側での設定はできない。			この要素は、ノードシステムによって付与される。情報発信システム側は、この要素を設定してはいけない。情報受信システム側は、この要素を解析する必要はないが、この要素が存在することによってエラーが出ないように注意する必要がある。
148		serviceName	xs:string	1	サービス名			
149		topicID	xs:string	1	トピックID			
150		taskStatus	commons:taskStatusType	?	この配信タスクのステータスを表す文字列ベースの列挙値。			
151			*				"EXECUTED"	この配信タスクは正常に終了している。
152			*				"WAITING"	この配信タスクは実行中である。
153			*				"DENIED"	この配信タスクは拒否された。
154			*				"FAILED"	この配信タスクは失敗している。
155		caption	xs:string	?	トピック名			
156		type	xs:string	?	トピック種別			
157		applicant	xs:string	?	利用団体ID			
158		applicantRole	xs:string	?	利用団体種別			
159		receivedNodeEndpointID	xs:string	?	収集・配信ポイントID			
160	commons-edxl:task				Comet-EDXL配信タスクを表す複合型要素			この要素は、ノードシステムによって付与される。情報発信システム側は、この要素を設定してはいけない。情報受信システム側は、この要素を解析する必要はないが、この要素が存在することによってエラーが出ないように注意する必要がある。
161		commons-edxl:CometEndpoint.PushTopicName	xs:string	1	トピック名を表す単純型要素。			
162		commons-edxl:CometEndpoint.PushMessageURI	xs:string	1	配信するメッセージのURIを表す単純型要素。			
163		commons-edxl:CometEndpoint.MessageSentTime	xs:dateTime	1	このメッセージが発信された時刻を表す単純型要素。			
164	received				メッセージ受信有無を確認するための情報。			この要素は、ノードシステムによって付与される。情報発信システム側は、この要素を設定してはいけない。情報受信システム側は、この要素を解析する必要はないが、この要素が存在することによってエラーが出ないように注意する必要がある。
165		nodeId	xs:string	1	受信済みノードのIDを表す。			
166		receivedTime	xs:dateTime	1	このノードがメッセージを受信した日時を表す。			
167		endpointID	xs:string	1	受信済み収集・配信ポイントID			
168	(end)							

(参考)

169	valueSchemeType							
170		explicitAddressScheme	xs:string	1	スキーム名		-	使用しない
171		explicitAddressValue	xs:string	?	値		-	使用しない
172	(end)							

コモンズEDXLデータモデル

